

# 島根県高齢者大学校実務検討会報告書

令和元年 8 月

島根県高齢者大学校実務検討会

## 目 次

第1	報告書作成の経緯	2
第2	新学園の概要	3
第3	新学園の骨子	5
1	目的、対象等	5
(1)	目的	5
(2)	対象	5
(3)	学習・教育目標	5
2	授業カリキュラム等	6
(1)	修学期間	6
(2)	授業カリキュラム	6
(3)	修了要件等	10
(4)	学生自主活動	10
3	学びと地域とをつなぐ仕組み	12
(1)	地域推薦枠の設定	12
(2)	地域の関係機関と連携したカリキュラム編成	12
(3)	地域（圏域）におけるシニア世代の地域活動参加を促進する支援体制の整備	12
(4)	圏域、地域での推進ネットワークづくり	13
4	学習拠点、定員、募集、受講料	14
(1)	学習拠点	14
(2)	定員	14
(3)	募集、広報	14
(4)	受講料	14
5	その他	15
(1)	評価	15
(2)	名称	16
[資 料]		
	設置要綱	17
	委員名簿	18
	検討会の経過	19
	公開講座の開催	20

## 第1 報告書作成の経緯

今日的な時代の要請や地域のニーズ等に応えた島根県高齢者大学校（シマネスクくにびき学園）（以下「学園」という。）の役割の再確認及び今後の再構築の方向性を検討するため、島根県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）内に学園見直し検討会を設置して検討を行い、平成30年8月に報告書を取りまとめた。

（報告書のポイント）

- カリキュラムの抜本的見直し
  - ・地域活動を担う人材養成への重点化
- 「学びと地域とをつなぐ仕組み」の構築
  - ・市町村中間組織（行政・社協・公民館・NPO・老人クラブ等）との連携強化
- 平成30年度後半から令和元年秋を目途に、新たな学習プログラム等について実務的な検討を行い、令和2年度から新たな学園をスタート

県においても報告書に示した方向性について理解が得られたことから、県社協では、次年度新規募集を停止するとともに、新たな学園（以下「新学園」という。）の学習プログラム等の骨子を検討するため学識者や学園卒業生、県市町村行政職員で構成する「島根県高齢者大学校実務検討会」（以下「検討会」という。）を設置した。

検討会は、平成30年12月から令和元年8月までに5回開催し、授業カリキュラムや学びと地域とをつなぐ仕組み等について幅広い視点から意見を交換した。

開校予定までの時間的制約があるため、検討会では地域活動を担うフォロワー人材の発掘養成を主目的とする課程に絞って検討を行い、その結果を報告書として取りまとめた。

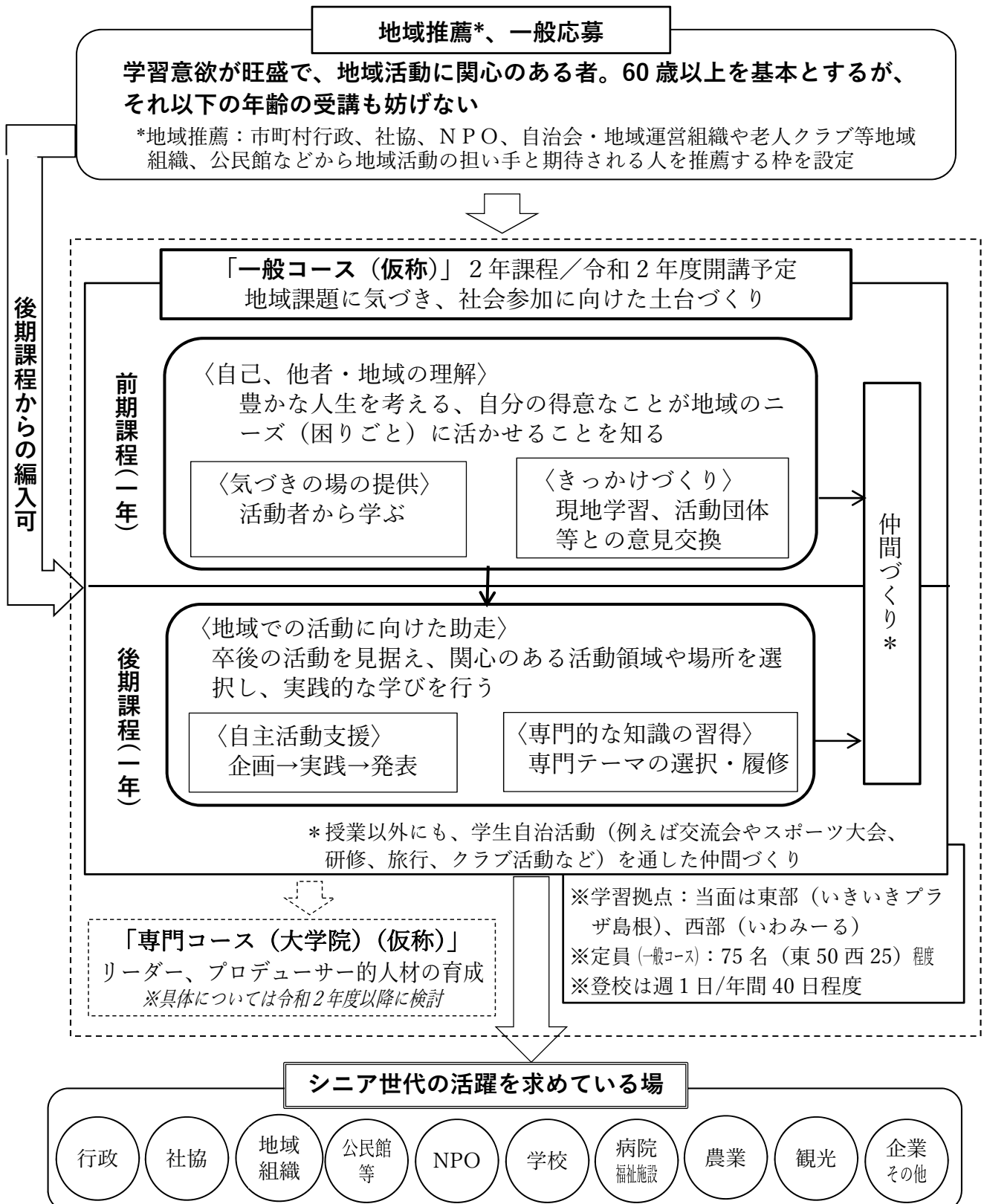
本報告書では、新学園は、地域活動に意欲のある60歳以上の人をメインターゲットとし、2年課程（「一般コース(仮称)」）の教育・学習活動を通して地域での活躍を求めている場につなげていく学びの場と規定し、そのカリキュラムや学びと地域とをつなぐ仕組み等を提案している。

なお、他県で先駆的に行われている地域づくりのプロデューサー的人材の育成を目指すいわゆる大学院的な課程の創設については、「一般コース(仮称)」開講後の状況を踏まえて検討・判断し、今後に委ねることとした。

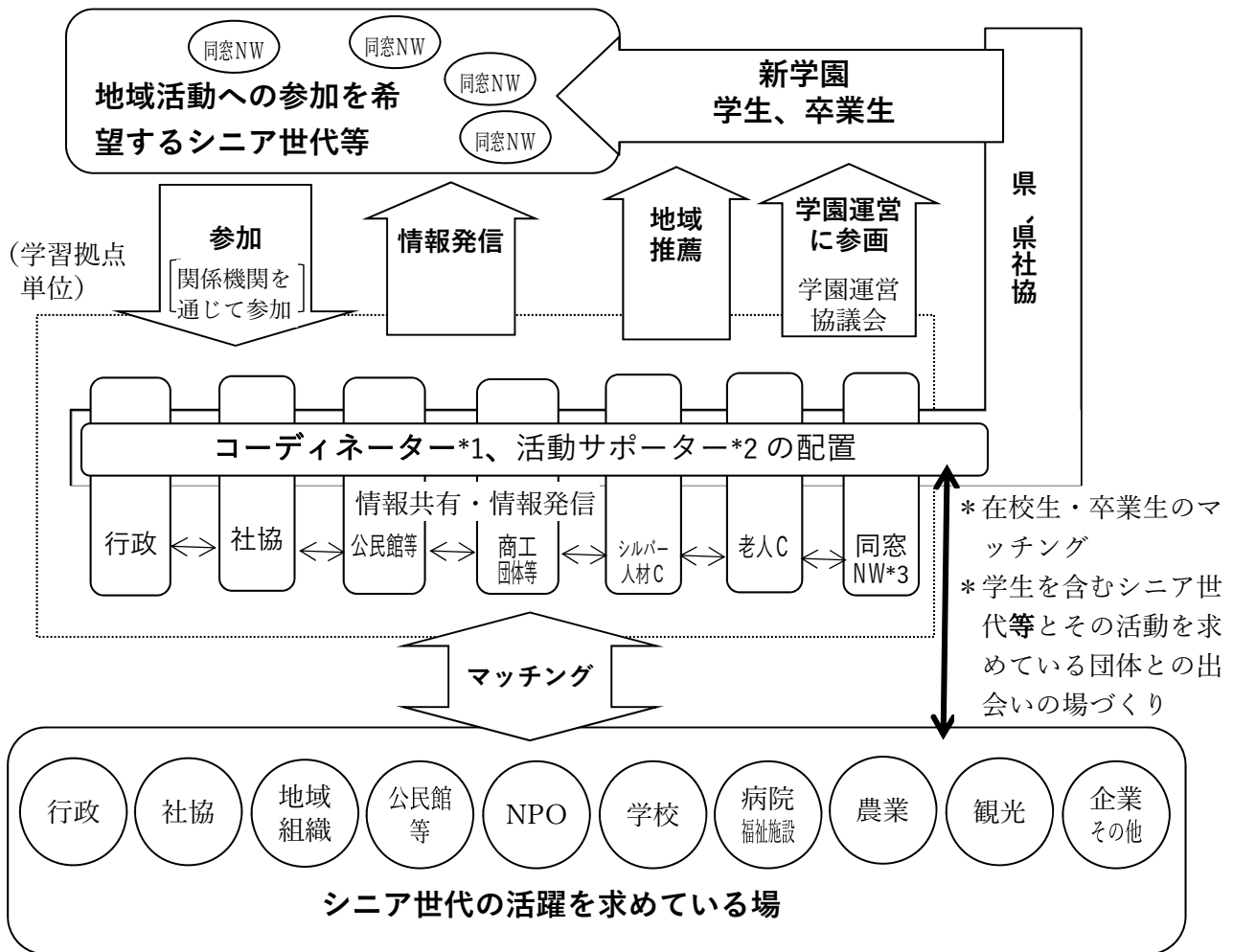
## 第2 新学園の概要

新学園の目的：社会や地域の中でさまざまなつながりや活動を通じた生きがいづくりの支援、島根を創る人づくりへの貢献

### ○地域づくり人材養成に重点化したカリキュラム（イメージ）



○市町村や社協、公民館等と連携し、学びと地域とをつなぐ仕組み(イメージ)



\*1 コーディネーター：学習拠点単位に配置。在校生・卒業生の地域活動参加支援、圏域内のシニア世代等の地域活動参加促進の仕掛けづくり等を行う。

\*2 活動サポーター：県内各地に配置（委嘱）。コーディネーターと連携し、地域内の活動状況や求められている活動等の情報収集・発信等を行う。

\*3 同窓ネットワーク（NW）：学園卒業生を学習拠点単位及び地域単位（市郡等）で組織化し、卒業後に同窓生等と共に地域とつながる様々なグループ活動を行う。

## 第3 新学園の骨子

### 1 目的、対象等

#### (1) 目的

社会や地域の中でのさまざまなつながりや活動を通じた生きがいづくりを支援するとともに、島根を創る人づくりに貢献する。

#### (2) 対象

県内在住で、学習意欲が旺盛であり地域活動に関心のある者とする。60歳以上を基本とするがそれ以下の年齢の受講も妨げない。

#### (3) 学習・教育目標

- ①これまでの人生を振り返り、これからの人生を充実させるライフデザインを通して、社会や地域とつながりながら生きがいを見つけようとする意識や態度の涵養
- ②地域の中に自分の力が役立ち、やってみたいと感じる多様な活躍の場（選択肢）があることを知り、活動に参加してみようとする意識や態度の涵養
- ③関心・興味を持った地域活動に参加するための知識・技術の習得と実践力の養成

## 2 授業カリキュラム

### (1) 修学期間

修学期間は前期課程1年、後期課程1年の2カ年とする。

### (2) 授業カリキュラム

前期課程は地域での多様な活動を知ることや地域活動に必要な基礎知識の習得を行い、後期課程では出口での活動を見据えて「専門テーマ(仮称)」を選択し、専門的な知識の習得や演習、フィールドワーク等を行う。

#### ① 前期課程

学習領域	主な学習内容
1 これまでの人生を振り返り、今後の人生・生きがいを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生100年時代の生き方</li> <li>・健康寿命と社会参加の効用 など</li> </ul>
2 コミュニケーションスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク、レクリエーション等の基礎</li> <li>・怒りやイライラのコントロール術</li> <li>・傾聴、多世代とのコミュニケーションの基礎</li> <li>・外国人へのおもてなし</li> <li>・SNS等の活用 など</li> </ul>
3 支援が必要な人達の理解と支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケア、基礎的な介護予防・介護技術や救急法等</li> <li>・障がい理解と社会参加の実際</li> <li>・気になる子ども等への支援</li> <li>・外国人との地域共生 など</li> </ul>
4 ふるさとしまねの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根の歴史、文化、自然、観光など</li> </ul>
5 地域課題の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を見つける視点、地域課題解決に関する制度や活動の理解</li> <li>i 地域課題理解(座学→現地学習→振り返り) 〈対象とする地域課題の例〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域づくり(自治会・公民館・NPO等における地域活性化やまちおこし、助け合い活動等)</li> <li>②地域包括ケア(生活支援、通いの場、認知症カフェ等)</li> <li>③共生社会(障がい者の就労、農福連携等)</li> <li>④地域自主防災</li> <li>⑤多文化共生(外国人理解)</li> <li>⑥子ども子育て、少子化等(シングル家庭等への支援、子ども食堂・学習支援、放課後児童対策、縁結びボランティア、女性活躍等)</li> <li>⑦環境保護、観光振興、伝統文化伝承(自然環境、ゴミ対策、鳥獣対策等、観光ガイド等)</li> </ul> </li> </ul>

	ii 地域課題理解学習の発表会  iii 地域づくり団体等との意見交換（「タウンミーティング（仮称）」）など
--	--



後期課程進学時に「専門テーマ（仮称）」を決める。

② 後期課程

卒後の活動を見据えて「専門テーマ（仮称）」を選び、より深く学ぶ。

共通科目	専門テーマ（仮称）
地域活動に必要な実践的な知識の習得  〈主な学習内容〉 ○現代社会の課題と地域、暮らし ・地方創生、地域資源を知る ・持続可能な開発目標 ・アドボカシー（政策提言、成年後見等）と市民社会 など ○地域での持続的な活動ノウハウ ・救急法、介護予防・介護技術 ・多世代とのコミュニケーション、人間関係ワークショップ、傾聴とカウンセリング ・資金や人材の確保、広報、プレゼンテーションのコツ など ○地域づくり団体等との意見交換（タウンミーティング）等 ○テーマ別学習（自主企画活動）の発表	出口での活動を見据えてテーマを選択し、演習やフィールドワーク等を交え専門的に学習  〈専門テーマの例〉 ①健康づくり、スポーツ・レクリエーション ・健康づくりや介護予防のための活動指導 など ・スポーツ・レクリエーション行事の運営、指導法 ②地域づくり ・地域の活性化、まちおこし等に関する活動の理解と実践 ・地域での助け合い活動の理解と実践 ・地域自主防災活動の理解と実践 など ③子育て子育て、少子化、女性活躍 ・子育て・シングル家庭への支援の必要性の理解、子ども食堂や子どもの学習支援等に関する活動の理解と実践 ・女性活躍社会の理解と実践 ・縁結びボランティア活動の理解と実践 など ④ふるさとしまね ・自然体験活動、伝統文化伝承など世代間交流、観光ボランティア、環境保護活動等についての理解と実践 など



年間授業計画のイメージ

〔前期課程〕（1年目）

	授業科目（※科目名は仮） ◎必修 ○選択
1 月 目	◎開講式、オリエンテーション ◎「人生100年時代を豊かに生きるために」（講義・演習） ◎「健康寿命と社会参加の効用」（講義・演習）
2 月 目	◎地域課題の理解① 「地域づくりの実際」（座学→現地学習→振り返り） ○支援が必要な人等の理解と支援の実際①（認知症ケアの基礎） ○コミュニケーション上手になろう①（グループワークの基礎）
3 月 目	◎地域課題の理解② 「地域包括ケアの実際」（座学→現地学習→振り返り） ○支援が必要な人等の理解と支援の実際②（介護予防・介護技術の基礎） ○コミュニケーション上手になろう②（レクリエーションの基礎）
4 月 目	◎地域課題の理解③ 「共生社会の実際」（座学→現地学習→振り返り） ○支援が必要な人等の理解と支援の実際③（あいサポート研修） ○コミュニケーション上手になろう③（怒りやイライラのコントロール術）
5 月 目	◎地域課題の理解④ 「地域自主防災の実際」（座学→現地学習→振り返り） ○支援が必要な人等の理解と支援の実際④（基礎的な救急法） ○コミュニケーション上手になろう④（傾聴の基礎）
6 月 目	◎地域課題の理解⑤ 「子ども子育て支援の実際」（座学→現地学習→振り返り） ○支援が必要な人等の理解と支援の実際⑤（気になる子ども等への支援） ○コミュニケーション上手になろう⑤（多世代とのコミュニケーションの基礎）
7 月 目	◎地域課題の理解⑥ 「多文化共生の実際」（座学→現地学習→振り返り） ○支援が必要な人等の理解と支援の実際⑥（外国人） ○コミュニケーション上手になろう⑥（外国人とのコミュニケーションの基礎）
8 月 目	◎地域課題の理解⑦ 「環境、観光、伝統文化」（座学→現地学習→振り返り） ○わがまちの魅力を知る（歴史、文化、自然等） ○コミュニケーション上手になろう⑦（SNS等の活用）
9 月 目	◎地域課題の理解⑧ 「地域が当面する課題、これまでの学びの振り返り」 ◎後期課程専門コース選択 ○タウンミーティング ◎学習成果発表会

〔後期課程〕（2年目）

	授業科目（※科目名は仮） ◎必修 ○選択
1 月 目	◎オリエンテーション ◎現代社会の課題と地域、暮らし①（人口減少社会、地方創生等）
2 月 目	◎テーマ別学習 テーマ別の基礎知識理解、自主企画学習の進め方（ゼミ形式） ◎現代社会の課題と地域社会、暮らし②（地域資源を知ろう） ○地域での持続的な活動ノウハウ①（救急法基礎講習）
3 月 目	◎テーマ別学習 自主企画学習の企画（フィールドワーク計画）（ゼミ形式） ◎現代社会の課題と地域、暮らし③（SDGs） ○地域での持続的な活動ノウハウ②（人間関係ワークショップ） ○タウンミーティング（第1回）
4 月 目	◎テーマ別学習 フィールドワーク実践 ◎現代社会の課題と地域、暮らし④（防災減災） ○地域での持続的な活動ノウハウ③（傾聴とカウンセリング等）（公開講座）
5 月 目	◎テーマ別学習 フィールドワーク実践 ◎現代社会の課題と地域、暮らし⑤（アドボカシー） ○地域で持続可能な活動を続けるノウハウ④（資金、人材確保、広報等その1）（公開講座）
6 月 目	◎テーマ別学習 フィールドワーク実践 ○地域で持続可能な活動を続けるノウハウ⑤（資金、人材確保、広報等その2）（公開講座）
7 月 目	◎テーマ別学習 フィールドワークの振り返り、学習成果発表に向けた準備（ゼミ形式） ○地域での持続的な活動ノウハウ⑥（プレゼンテーションのコツ）（公開講座）
8 月 目	◎テーマ別学習 学習成果発表に向けた準備 ○タウンミーティング（第2回）
9 月 目	◎学習成果発表会 ◎学園生活の振り返り、卒後の活動に向けて ◎閉講式

### ③学園の1日の流れ

10:00～	10:30～12:00	12:00～13:15	13:15～14:45	15:00～16:30
ホームルーム等	第1時限	昼休み 自治活動等	第2時限	クラブ活動等

### (3) 修了要件等

#### ① 修了要件

前期課程	・地域課題の理解に関する科目、学習成果発表は必須 ・学園が定める一定の選択科目の取得（必要科目数等は今後実務的に決定）
後期課程	・フィールドワーク関連科目、フィールドワーク実践、学習成果発表は必須 ・学園が定める一定の選択科目の取得（必要科目数等は今後実務的に決定）

#### ② 修了証等

- ・ 前期及び後期課程を修了した者に修了証を授与する。
- ・ 修了証に加えて身分証やバッジ等も交付する。

#### ③ 編入

後期課程からの編入を認める。編入にあたっては、選考試験（面接等）又は地域推薦を要件とする。

### (4) 学生自主活動

#### ① 学生自治活動

学生が相互の交流を図るために自治組織をつくり、各種の自主活動を実施していくことを支援する。

#### ② クラブ活動

学生相互の交流を深め、趣味活動の幅を広げるため、学生の希望により自主的にクラブをつくり活動する。クラブ活動に係る経費は自己負担とする。

(参考) 年間行事等のイメージ

	前期課程	後期課程
入学	開講式	
1月目	オリエンテーション	
1月目	講義開始	講義開始
2月目	学生自治組織総会（学生自治活動、クラブ活動等の検討） 学生交流会（自主活動）	学生自治組織総会（〃） 学生交流会（〃）
〇月		タウンミーティング(第1回)
〇月	スポーツ大会（自主活動）	スポーツ大会（〃）
〇月	公開講座	公開講座
〇月	研修旅行、社会見学（自主活動）	研修旅行、社会見学（〃）
〇月	タウンミーティング	タウンミーティング(第2回)
〇月	学習成果発表会	学習成果発表会
10月目	後期課程専門テーマの選択	閉講式

### 3 学びと地域とをつなぐ仕組み

#### (1) 地域推薦枠の設定

市町村行政、社協、NPO、自治会・地域運営組織や老人クラブ等地域組織、公民館などから地域活動の担い手と期待される学生を推薦してもらう。推薦方法等については、今後市町村等から意見を聞きながら具体化していくこととする。

推薦を行った地域・団体には、地域課題学習や推薦された学生のフィールドワーク等を通して実際の現場活動へのフィードバックを積極的に行っていく。さらに、地域推薦団体と協働し、タウンミーティングや地域巡回講座、公開講座を開催するなど、新たな人材の掘り起こしや被推薦者の卒後の地域活動につなげる仕掛けづくり等も行っていく。

#### (2) 地域の関係機関と連携したカリキュラム編成

在学中の地域活動の体験実習や自主企画、地域における多様な活動の場を知る学習については、後述する「運営協議会（仮称）」等で意見等を聞きながら編成していく。

#### (3) 地域（圏域）におけるシニア世代の地域活動参加を促進する支援体制の整備

##### ① コーディネーターの配置

学習拠点単位に「活動推進コーディネーター（仮称）」を配置し、学生・卒業生の地域活動参加を支援するとともに、圏域における関係機関の連携体制の構築・強化等によりシニア世代の地域課題解決に向けた活動参加を促進する。

（「活動推進コーディネーター（仮称）」の役割）

- 学生の地域活動に関する相談、実習先等の開拓、学生自主企画と地域とのつなぎと支援、卒後の活動フォロー等
- 多様な機関・団体と連携・協働し、活動の場を求めている学生を含めたシニア世代と活躍を求めている場とのマッチング（情報収集・提供、出会いの場の企画等）

##### ② サポーターの配置

「活動推進コーディネーター（仮称）」や学園卒業生の同窓組織（同窓ネットワーク）等と連携し、県内各地の卒業生等の活動状況の発信や求められている活動との連絡調整等を行う「活動サポーター（仮称）」を配置（委嘱）する。

##### ③ シニア世代と地域の活動団体等との出会いの場づくり

活動の場を求めている学生を含めたシニア世代と活躍を求めている団体等との出会いの場を、県内各地で開催する。

新学園の地域巡回公開講座としての開催や、授業の一環として在学生・卒業生の居住地域で開催するなど地域の実情に応じて実施する。

#### (4) 圏域、地域での推進ネットワークづくり

##### ① 地域の関係機関によるネットワーク

学習拠点単位に、市町村や社協、公民館、シルバー人材センター、商工・観光・農業団体、同窓ネットワーク、老人クラブなど様々な関係機関が参画する「運営協議会（仮称）」を設置する。卒後の活動や地域等からの人材の送り出し、カリキュラム等の学園運営に意見を反映させることや、シニア世代の地域活動参加促進に向けた情報共有・情報発信等も行う。

##### ② 卒業生の地域ネットワークづくり

卒業後に同じ地域の同窓生等と共に楽しみ、地域とつながる様々なグループ活動を行っていくことを促進するため、一定の地域内の多様なグループが「地域同窓ネットワーク（仮称）」を通してつながることで、仲間の輪の広がりや、地域の課題解決に向けたさらなる大きな力としていく。

なお、地域同窓ネットワークについては、既存のくにびき学園同窓ネットワーク等の意見を聞きながら具体化していく。

## 4 学習拠点、定員、募集、受講料

### (1) 学習拠点

当面は「いきいきプラザ島根」（松江市）を東部校、「いわみーる」（浜田市）を西部校の学習拠点とする。

### (2) 定員

新学園ではバスで地域に出かけて意見交換や体験するなど現地実習を重視しており、現地での受け入れ可能人数、バス移動や研修室の収容人数等を勘案し、当面は東部校 50 名（25 名 2 クラス）、西部校 25 名程度とする。

### (3) 募集、広報

#### ① 地域推薦

市町村を經由して、社協、NPO、自治会・地域運営組織や老人クラブなど地域組織、公民館などから、地域での活動に向けてより知識を深め、視野を広く持ち、企画・実行能力を向上しようとする者を募集する。

地域推薦枠数については、今後実務的に検討していく。

#### ② 一般公募

地域での活動に意欲のある者を募集する。

#### ③ 広報

新学園の広報にあたっては、島根を支える人材であるシニアの活躍推進を柱にして、多くの機関・団体と理解と協力を得て、積極的に広報活動を展開していくことが重要である。

募集の広報については、特に開校前及び開校当初において、地域推薦を依頼する機関・団体等に個別に出向きメリット等を丁寧に説明しながら依頼していくこと、現学園の在校生・卒業生への勧誘を積極的に行うことなどが必要である。

なお、開校後は、学園生活の様子や卒業後の活動等を各種媒体で発信していくとともに、オープンカレッジや地域巡回講座・タウンミーティング等の場を活用して新学園の魅力を積極的にアピールしていくことが必要である。

### (4) 受講料

新学園はこれまでの学園に比べ、より学びの成果を社会や地域に還元する内容にシフトすることなどの公益的な観点を勘案し、受講料は現行の額（入学金 10,000 円 受講料 18,000 円（年額））を上回らない範囲で設定する。

具体の額については、今後実務的に検討し、決定する。

## 5 その他

### (1) 評価

#### ① 成果指標

項目	備考
○入学者数	
○入学前と入学後の地域活動に対する関心・意欲・態度等の変容	入学前は申込書類で把握。 入学前の質問項目例：入学のきっかけや動機、学園に期待していること、地域活動に関する関心・意欲・態度等
○受講者満足度	
科目ごとの評価（全科目）	質問項目例：理解できた、関心が持てた、自分自身の役に立つと思う、学習意欲がわきより深く学習したくなった、授業の進め方は適切であったか等
前期課程、後期課程修了時点での評価	質問項目例：地域での活動への意欲や展望が持てるようになったか等
○卒後の地域活動参加状況 「地域活動」：地域組織での活動、地域の支え合い活動、ボランティア活動、NPO 活動など、地域や社会の中で、様々な人と関わりながら行う活動	方法例：修了後概ね3ヶ月後及び1年後にフォローアップアンケートを実施。コーディネーターによる状況把握等
○地域との連携協働の状況 ・地域と連携したカリキュラム編成 ・タウンミーティングの開催 ・地域推薦団体等と連携した地域巡回講座の開催等	

#### ② 評価の方法

運営や授業に関する評価は毎年度行い、「運営協議会(仮称)」や学生、講師等の意見も聞きながら次年度の運営等に反映する。

各課程修了時点の受講者満足度や卒後の地域活動の状況、地域との連携状況等をもとに3年ごとに基本的な枠組みの検証を行い、4年目以降の運営等に反映していく。



## (2) 名称

新学園の名称の考え方の方向性は、定着している「くにびき学園」の名称を残し、新学園の実際を分かりやすく表現する副題をつけることとする。

## 島根県高齢者大学校実務検討会設置要綱

### (目 的)

第1条 島根県高齢者大学校（シマネスクくにびき学園）見直し検討会の報告書を踏まえた、今後の検討課題及び新学習プログラムについての具体的な検討を行うことを目的として、島根県高齢者大学校実務検討会（以下、「検討会」という。）を設置する。

### (検討事項)

第2条 前条の目的を達成するため、検討会は学習プログラムについて検討・協議し、その結果を県社協会長に報告する。

### (構 成)

第3条 検討会は、次に定める者12名以内をもって構成し、委員は島根県社会福祉協議会（以下、「県社協」という。）会長が委嘱する。

- (1) 地域づくり・高齢者就業支援について専門的知見を有する者
- (2) 地域共生社会・福祉・地域貢献学習について専門的知見を有する者
- (3) 社会教育・生涯学習について専門的知見を有する者
- (4) 企業退職者等のセカンドライフ支援について専門的知見を有する者
- (5) 地域包括ケアについて専門的知見を有する者
- (6) 島根県高齢者大学校（シマネスクくにびき学園）に関係する者

### (関係者の意見)

第4条 会長または座長が必要と認める場合は、委員以外の者をオブザーバーとして検討会へ出席させ意見を求めることができる。

### (任 期)

第5条 委員の任期は第1回開催日から検討会の目的を達成した日までとする。

### (運 営)

第6条 検討会に座長、副座長を置く。

2 座長、副座長は委員の互選とする。

### (招 集)

第7条 検討会の招集は県社協会長が行い、会議の議長は座長があたる。

2 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときは、その職務を代行する。

### (事務局)

第8条 検討会の事務は、県社協地域福祉部においてこれを処理する。

### (その他)

第9条 この要綱に定めのない事項については、県社協会長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成30年12月4日から施行する。

### 附 則

この要綱は、平成31年1月10日から施行する。

## 島根県高齢者大学校実務検討会名簿

(委員) ※敬称略

	氏名	所属	役職	備考
◎	川瀬 英			地域共生社会・福祉・地域貢献学習
○	田原 秀樹	島根県福祉教育推進協議会	副委員長	
	毎熊 浩一	国立大学法人島根大学法文学部・人文社会科学研究科	准教授	学識経験
	鈴木 遵也	公立大学法人島根県立大学総合政策学部	准教授	
	村田 三郎	東部校同窓ネットワーク	事務局長	島根県高齢者大学校（シマネスクくにびき学園）関係
	岩本 節雄	西部校同窓ネットワーク	運営委員	
	板持 周治	雲南市政策企画部地域振興課	課長	地域づくり
	井上 修	島根県地域振興部しまね暮らし推進課	調整監	
	曾田 浩二	島根県地域振興部中山間地域研究センター	調整監	
	桐田 和幸	島根県健康福祉部高齢者福祉課地域包括ケア推進室	室長	地域包括ケア
	宮原 麻琴	島根県商工労働部雇用政策課女性・高齢者等就業支援グループ	G L	高齢者就業支援
	岩崎 健児	島根県教育庁社会教育課生涯学習振興グループ	G L	社会教育・生涯学習

◎座長、○副座長

所属等は令和元年8月1日現在

(事務局)

島根県健康福祉部高齢者福祉課

社会福祉法人島根県社会福祉協議会地域福祉部、石見支所

## 検討会の経過

回数	期日	検討事項
第1回	平成30年12月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 検討の背景、検討会の目的及び役割について</li> <li>2 今後の検討事項及び進め方について</li> </ol>
第2回	平成31年3月1日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新学園が育成する人材について</li> <li>2 学習プログラムについて</li> </ol>
第3回	平成31年4月11日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これまでの議論の振り返り</li> <li>2 新学園の骨子について</li> </ol> <p>※検討の参考とするため、第3回検討会の前に、先行事例である「長野県シニア大学の取り組み」に関する公開講座を開催した。</p>
第4回	令和元年6月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新学園の骨子について <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム</li> <li>・地域とつなぐ仕組み</li> <li>・学習拠点、定員、受講料設定の考え方</li> </ul> </li> </ol>
第5回	令和元年8月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新学園の骨子について <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集</li> <li>・評価</li> <li>・学園の名称等</li> </ul> </li> <li>2 報告書案について</li> </ol>



◇公開講座の開催

日時／平成31年4月11日（木）10：00～12：00

会場／松江市東津田町1741-3「いきいきプラザ島根」403研修室  
 浜田市野原町1826-1「いわみーる」（※Web会議方式）

対象／学園生、卒業生含む県民、検討会委員

講師／フリージャーナリスト 内山二郎 氏

演題／長野県シニア大学の取り組み ～人生二毛作社会の実現に向けて～

（ちらし）

シマネスクくにびき学園 公開講座

長野県シニア大学から学ぶ  
「人生100年時代を見据えた高齢者大学の在り方」

事前申込不要  
入場無料

日時／平成31年4月11日（木）10：00～12：00

会場／松江市東津田町1741-3「いきいきプラザ島根」403研修室  
 浜田市野原町1826-1「いわみーる」（※Web会議方式）

人生100年時代において、誰もが元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる重要な課題となっています。シニア世代が培ってきた豊富な知識や経験を活かして社会参加活動を行う「人生二毛作社会づくり」を具体化した長野県シニア大学の取り組みをお聞きし、シニアの社会参加の機運醸成を図ることを目的とします。

講師：フリージャーナリスト うちやま じろう 内山 二郎 氏



長野県長寿社会開発センター理事長  
 長野県協働推進有識者会議委員  
 長野県共同基金監事  
 長野県農村文化協会委員  
 長野市社協「聴覚電話」運営委員長

【プロフィール】

- ・1943年神奈川県生まれ、本籍長野市信要町
- ・更府小学校、信要中学校、長野高校、慶応義塾大学卒業
- ・慶応義塾大学卒業・学生時代にベトナム戦争下の現地に赴く
- ・マゴロ船乗り、沖仲仕、編集、映画助監督、TVディレクターなどを経てフリージャーナリストになる。アジア、アフリカ、北欧、東欧、オーストラリアなどを取材
- ・1983年 病気療養のため帰郷、長野を拠点に活動始める。障害者福祉、国際理解、人権問題、市民活動、地域づくり、高齢者の社会参加などに関わる。執筆、コミュニケーションなどに関する執筆・講演・セミナー・大学の講師などを勤める。

主催／社会福祉法人 島根県社会福祉協議会  
 ☎ 0852-32-5981（地域福祉部長寿社会関係係）  
 0855-24-9336（石見支所くにびき学園担当）

